

イノベーション研究センター創設 10 周年記念国際シンポジウム
イノベーション研究のフロンティア
 -日本の国際競争力構築に向けて

Hitotsubashi University
 Institute of Innovation Research



プログラム (予定)

日時： 2007 年 3 月 4 日 (日) - 5 日 (月), 9:50-17:40
 会場： 一橋記念講堂 (学術総合センタービル, 千代田区一ツ橋)
 定員： 500 名
 参加料： 無料
 申込期限： 2007 年 2 月 23 日 (金)
 主催： 一橋大学 イノベーション研究センター, 株式会社日本経済新聞社
 協力： 社団法人如水会

一橋大学イノベーション研究センター (IIR) は、日本経済新聞社との共催により、創設 10 周年記念国際シンポジウム「イノベーション研究のフロンティア-日本の国際競争力構築に向けて」を開催いたします。“イノベーション研究のフロンティアから今後のイノベーション戦略を考える”機会としたいと考えております。ぜひご参加ください。

3 月 4 日 (日)

09:50-09:55	開会挨拶	長岡貞男 (一橋大学 イノベーション研究センター長)
09:55-10:05	挨拶	杉山武彦 (一橋大学 学長)
10:05-10:20	来賓挨拶	北城恪太郎 (社団法人経済同友会 代表幹事)
10:20-11:50	基調講演 1	The Importance of Services Innovation in Software and Other Industries (サービス・イノベーションの重要性) Michael A. Cusumano (Professor, Sloan School of Management, Massachusetts Institute of Technology) (マイケル・A・クスmano (マサチューセッツ工科大学 (MIT) スローン・スクール・オブ・マネジメント教授))
11:50-13:00	(昼食)	
13:00-15:00	セッション 1	日本企業の強みと弱み：イノベーションプロセスの視点から 現代の日本において、テクノロジーとマーケットの複雑性がある閾値を超えはじめるにつれ、各種ナレッジの結集が十分に広範囲なレベルで迅速に実現されにくくなる事例が相次いでいる。その結果、様々な分野で生み出される創造的な発明・発見が市場を通じて社会生活に変革をもたらすイノベーションの発現スピードが低下する傾向すら生まれている。そして、そのことが産業自体の競争力弱化にも繋がるケースが希でなくなっている。本セッションでは、このような問題意識に基づいて、日本の中核産業の一つである電機産業の中から、競争力が依然として高いデジタルカメラ産業と弱体化傾向が顕著化している半導体産業を取り上げ、各々の産業におけるイノベーションプロセスの強みと弱み、それらの背後要因を分析・検討する。
13:00-14:00	発表	ムーアの法則がもたらした複雑性増大と“組織限界”： 日本の DRAM ビジネス盛衰の現代的意義を探る 中馬宏之 (一橋大学 イノベーション研究センター 教授) デジタルカメラ産業における技術進歩と企業競争力 青島矢一 (一橋大学 イノベーション研究センター 助教授)
14:00-15:00	パネル・ディスカッション	モデレーター 延岡健太郎 (神戸大学 経済経営研究所 教授) パネリスト 石内秀美 (株式会社東芝 セミコンダクター社 半導体研究開発センター センター長附; 社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA) 半導体技術ロードマップ専門委員会 委員長) 小西正弘 (富士フイルム株式会社 R&D 統括本部 光学デバイス研究所 研究担当部長) 楠木 建 (一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 助教授; IIR 元助教授 (兼任)) 中馬宏之 青島矢一
15:00-15:30	(コーヒー・ブレイク)	
15:30-17:30	セッション 2	イノベーションの担い手：アントルプルヌア vs. イントラプルヌア イノベーションの担い手は誰か。既得権益に縛られない、やる気に満ちた新興企業が。豊かな資源を持ち、失敗を許容する余裕がある大企業か。シュンペーターがかつて投げかけた問いをめぐって、日本の特徴と課題を考える。
15:30-16:30	発表	大企業のイノベーション：大河内賞受賞事例にみるイノベーションの理由と顛末 武石 彰 (一橋大学 イノベーション研究センター 教授) 日本のベンチャー精神：アントルプルヌアシップを科学する 米倉誠一郎 (一橋大学 イノベーション研究センター 教授)
16:30-17:30	パネル・ディスカッション	モデレーター 米倉誠一郎 パネリスト 野中郁次郎 (一橋大学 名誉教授) 宮原諄二 (東京理科大学 専門職大学院 総合科学技術経営研究科 教授; IIR 前センター長) 藤原 洋 (株式会社インターネット総合研究所 代表取締役所長) 飯塚哲哉 (ザインエレクトロニクス株式会社 代表取締役社長) 武石 彰

3月5日(月)		
09:50-10:10	来賓挨拶	吹野博志 (社団法人如水会 前常務理事; 株式会社ナノジオメトリ研究所会長; デルコンピュータ・ジャパン会長)
10:10-10:30	来賓挨拶	日本発のイノベーションによる産業・社会構造の変革を目指して 阿部博之 (内閣 知的財産戦略本部員; 内閣府 総合科学技術会議 前議員)
10:30-12:00	基調講演 2	Innovations for Products, Innovations for Licensing: When and Why We See Them and Why We Should Care (垂直統合かライセンスか: イノベーション戦略の今後) Alfonso Gambardella (Professor, Department of Business Administration, Bocconi University) (アルフォンソ・ガンバルデッラ (イタリア) ボッコニ大学 経営学部 教授)
12:00-13:00	(昼食)	
13:00-15:00	セッション 3	プロ・イノベーションの知的財産制度 イノベーションを促進する制度として知的財産制度は中核的な制度の一つであるが、イノベーションの性格に合わせた制度の設計あるいは運用が重要になっていると認識されるようになってきている。本セッションでは、こうした観点から企業間の効率的な協力が必要となっている IT 分野を中心とした標準の分野及びライフサイエンスなど産学連携に焦点を合わせて、知的財産制度及びその補完的な制度の在り方 (競争政策など) を検討する。
13:00-14:00	発表	イノベーションにおける競争と協調 長岡貞男 (一橋大学 イノベーション研究センター 教授) 産学連携と知的財産制度 伊地知寛博 (一橋大学 イノベーション研究センター 助教授)
14:00-15:00	パネル・ディスカッション	モデレータ 小田切宏之 (一橋大学大学院 経済学研究科 教授) パネリスト 加藤 恒 (三菱電機株式会社 知的財産渉外部 次長) 森岡 一 (味の素株式会社 知的財産センター 次長) 伊藤秀史 (一橋大学大学院 商学研究科 教授) 長岡貞男 伊地知寛博
15:00-15:30	(コーヒー・ブレイク)	
15:30-17:30	セッション 4	ネットワークとイノベーション 個人や組織の持続的な繁栄は偶然的な産物ではなく、個人や組織といった各ノード (結節点) がいかに他のノードと結びつき、どのようなトポロジーのネットワークを構成し、そこでいかなる位置を占めているかによって決まる。成功する組織や地域経済のトポロジーは、濃密な近所づきあいを維持しながら、適度にランダムな遠距離交際を行うスモールワールド・ネットワークなのである。また、IT 産業におけるトップ企業の歴史的データを用いながら、技術的な非連続と水平分業のあり方が、いかに企業ランキングに影響を与えたかについて考察する。
15:30-16:30	発表	遠距離交際と近所づきあい—成功する組織ネットワーク戦略 西口敏宏 (一橋大学 イノベーション研究センター 教授) Technological Discontinuities and Vertical Disintegration: Case of IT Industry in North America (非連続技術と水平分業: 北米 IT 産業のケース) Jeffrey L. Funk (一橋大学 イノベーション研究センター 教授) (ジェフリー・L・ファンク)
16:30-17:30	パネル・ディスカッション	モデレータ 西口敏宏 パネリスト 今井賢一 (一橋大学 名誉教授) 深山延暁 (防衛省 運用企画局事態対処課長) 辻田素子 (龍谷大学 経済学部 助教授) Jeffrey L. Funk
17:30-17:40	閉会挨拶	長岡貞男 (一橋大学 イノベーション研究センター長)

(敬称略)
都合により内容が一部変更になる場合があります。

参加をご希望の方は、

<http://www.nikkei.co.jp/adnet/> よりお申込みください。

但し、一橋大学、如水会関係者の方々は、お名前、ご所属、ご役職、ご連絡先 (電子メールアドレス、電話番号)、および参加希望日 (どちらか 1 日のみのご参加でも構いません) を明記の上、電子メールにてお申込みください。
送付先メールアドレス: iir_2007@iir.hit-u.ac.jp

申込み期限: 2月23日(金)

※お申し込み多数の場合は抽選とさせていただきます。当選者の発表は日本経済新聞社より聴講券の発送をもって代えさせていただきます。
※個人情報は本シンポジウムならびに一橋大学イノベーション研究センターからの情報提供のみに利用し、他の目的での利用や第三者へ譲渡・開示することはありません。